

平成30・31年度文部科学省委託事業

教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い  
学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習・指導方法  
の改善の推進事業 中間報告



# 山口県教育委員会の取組

## これからの時代に求められる資質・能力の育成

### 学校の組織力の充実

- 全校体制によるカリキュラム・マネジメント
  - ・教育課程説明会や管域数教育課程研修の開催
  - ・教育課程研究指定校事業の推進と成果の普及
- 全校体制による年間2回の検証改善サイクルの活用
  - ・全国学力・学習状況調査と山口県学力定着状況確認問題の実施
- 分析結果を活用した課題の抽出と課題解決
  - ・学力分析支援ツールによる分析結果の提供
  - ・各学校の課題に応じた学校訪問の実施
- 校内研修の活性化による組織的な授業改善
  - ・「学習指導要領の手引き」等、県教委作成資料を活用した校内研修の促進
  - ・小学校における授業交換や専科指導の活用による教科担任制の推進
  - ・中学校における生徒による授業評価の推進
- きめ細かな指導体制づくり
  - ・SS入学級化の実施と少人数指導加配等の配置
  - ・全教職員や地域人材の活用による組織的な補充学習の促進

### 教員の授業力の向上

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善
  - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善実践研究事業の推進と成果の普及
- 教科の専門性やキャリアステージに応じた研修
  - ・若手・中堅・管理職を対象とした研修の実施
- やまぐち総合教育支援センターとの連携
  - ・効果的な指導方法の研究と成果の普及に資する研修の実施
  - ・「やまぐち総合教育支援サイト」等の学習指導用資料の活用促進
- 校内研修等の充実による授業改善
  - ・学力向上推進リーダー等を活用した校内研修の促進
  - ・「学力向上だより」の発行による情報提供

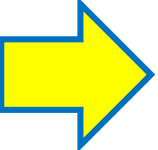
### 学校・家庭・地域の連携力の強化

- 「やまぐち型地域連携教育」の仕組みの活用
  - ・学校運営協議会による学力課題の共有と課題解決のための熟議の促進
  - ・地域人材の参加によるユニット型研修の促進
- 情報共有による学習習慣の確立
  - ・PTA組織や家庭への情報提供等による連携強化
  - ・学力分析支援ツールによる個人票の提供
  - ・補充学習等における「やまぐちっ子学習プリント」の活用促進
- 異校種間連携の充実による学習環境づくり
  - ・小中連携授業力向上実践研究校、小中高連携英語教育推進校・連携校による研究の推進
  - ・小中連携カリキュラムや地域連携カリキュラム作成等による小中一貫教育の推進
  - ・幼保小・小中合同研究会や小中の相互乗り入れ指導の促進
  - ・「つながる子どもの育ち大会」の開催

## やまぐち型地域連携教育

全国学力・学習状況調査の結果等から

 **学力向上の取組に一定の成果**

 **課題**

- 特定の内容の知識・技能の定着
- 思考・判断・表現する力の育成
- 教員の授業改善意識

**授業改善**

**小中連携**

# 研究主題

学校・家庭・地域が連携・協働して子どもの学びや育ちを支援する「やまぐち型地域連携教育」を基盤とし、9年間の学びの系統性を見据えた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

## 山口県教育委員会の取組

- 組織的な授業改善の活性化と個々の教員の授業力の向上
- 年間2回の検証改善サイクルの質の向上
- 家庭・地域との連携促進

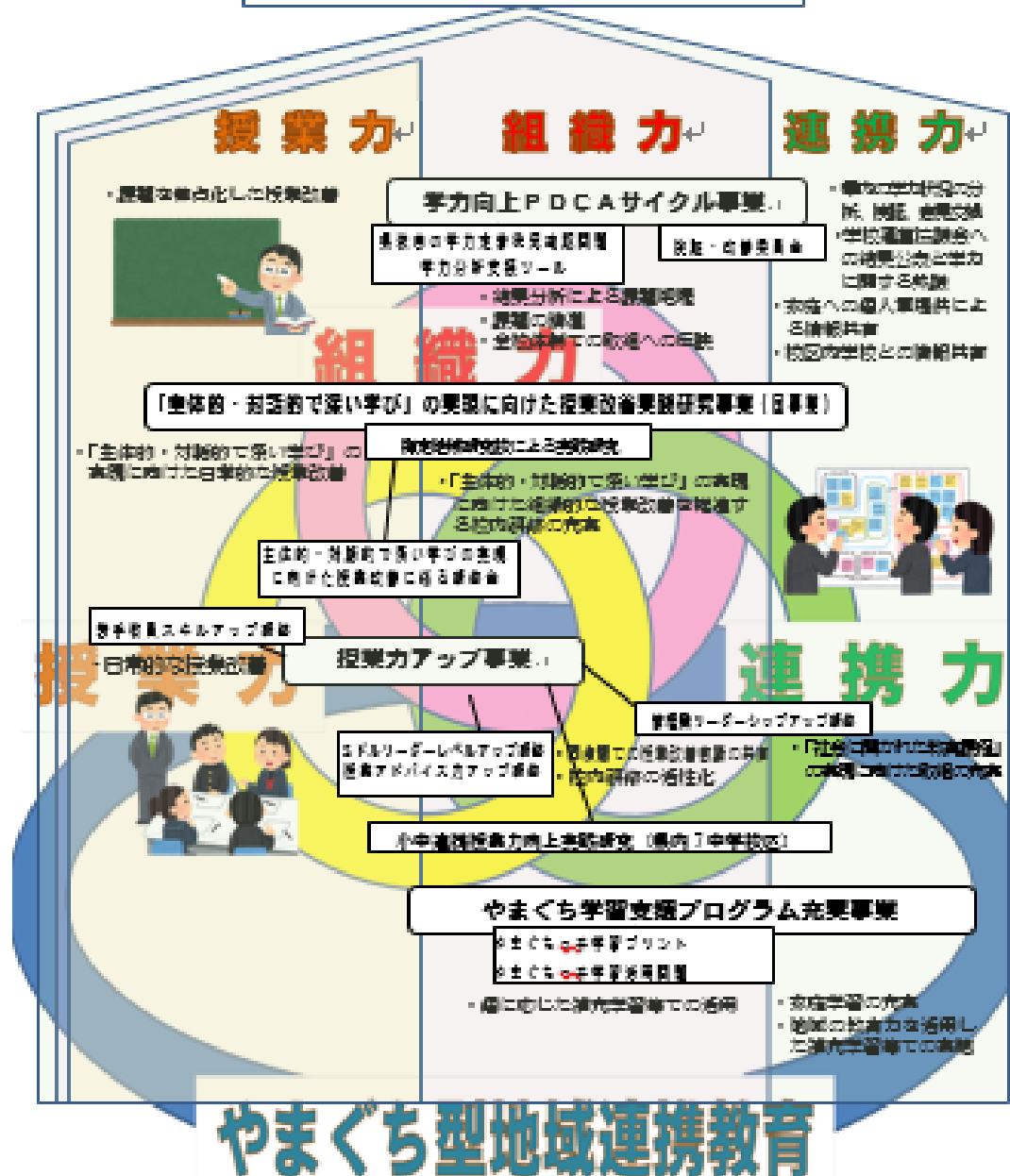
## 研究拠点校

岩国市立麻里布中学校

岩国市立麻里布小学校

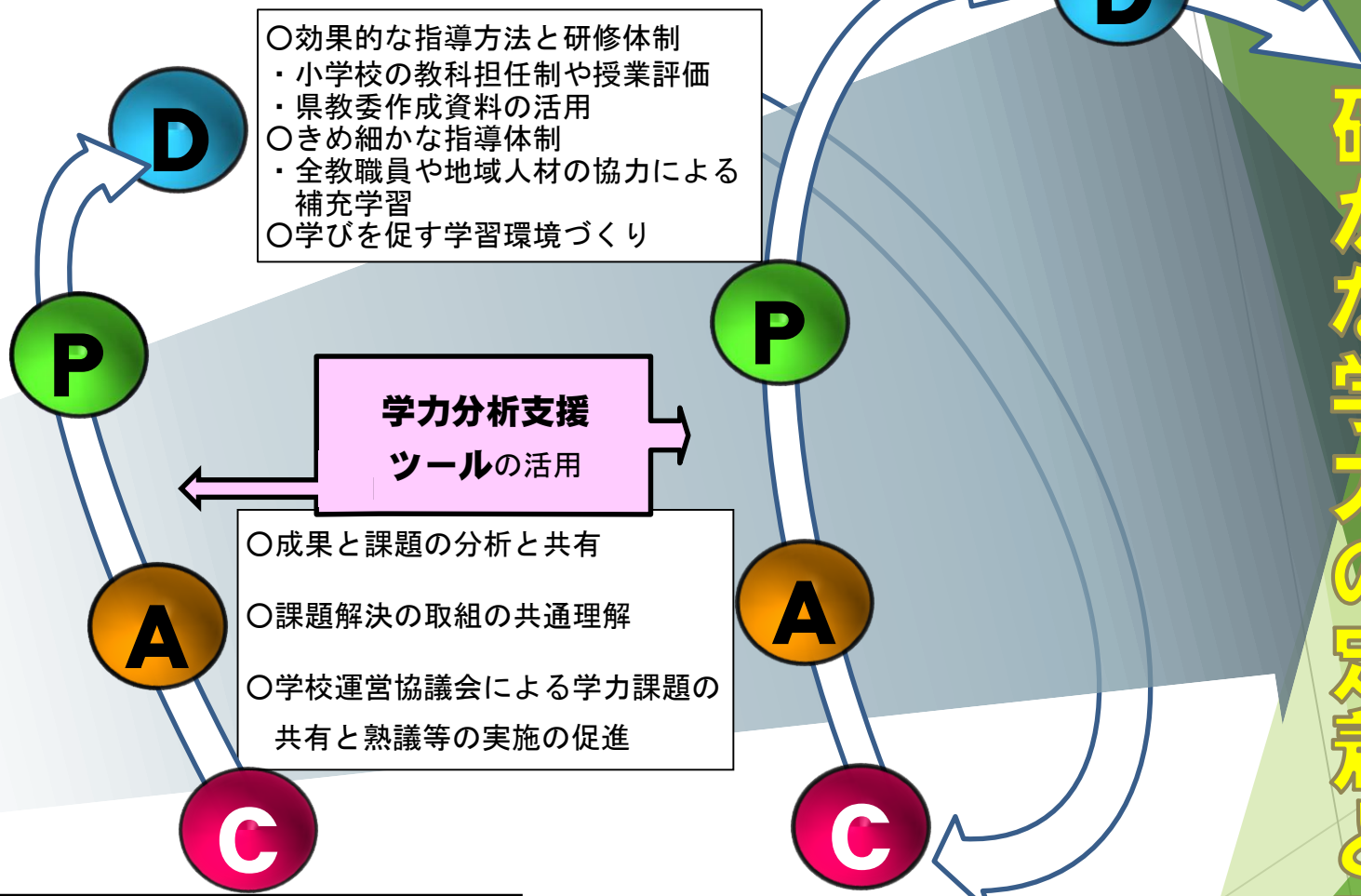
# 山口県教育委員会の取組

## 社会を生き抜くための学力の育成



## やまぐち型地域連携教育

# 学力向上P D C Aサイクル事業



**学校の組織力の充実による**  
**確かな学力の定着と向上**

小4～中3

**全国学力・学習状況調査  
4月確認問題**

○全県の状況と比較して学力状況を分析

※小3は問題のみ提供

小4～中2

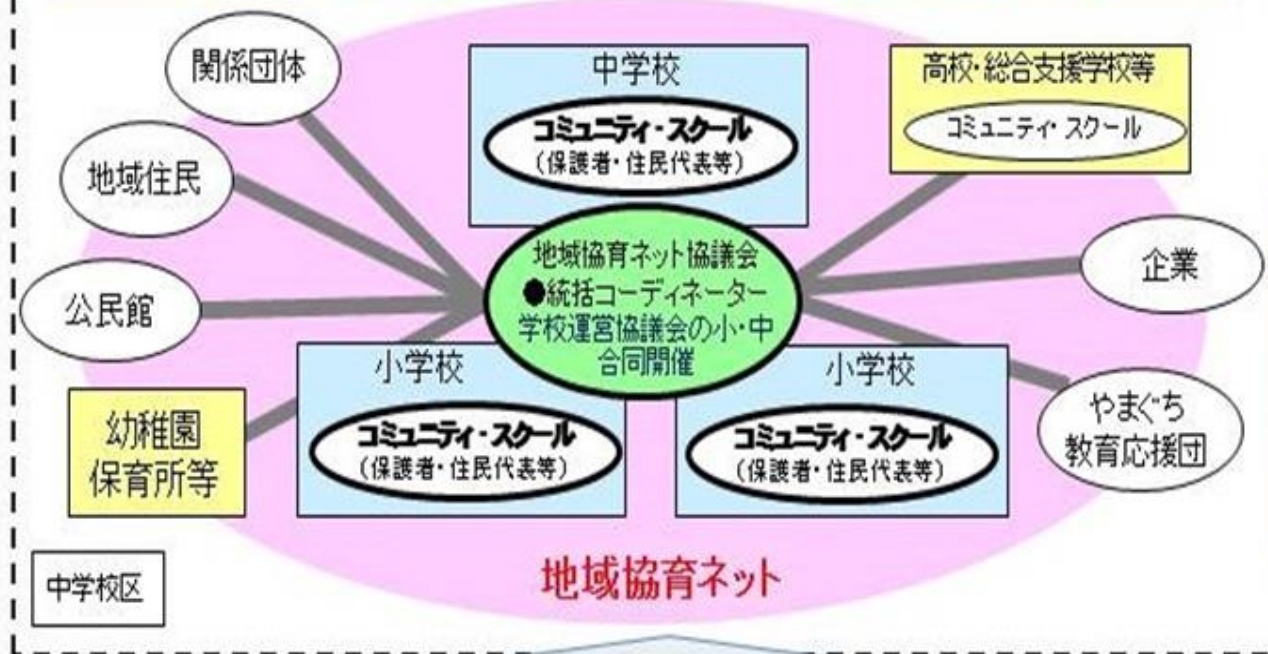
**山口県学力定着状況確認問題**

○全県の状況と比較して取組の成果と課題を分析



## 「やまぐち型地域連携教育」の推進

コミュニティ・スクールを核とした地域のネットワーク



地域の教育力の向上  
地域の活性化

学校運営  
学校運営の質の向上

学校支援  
学校教育の質の向上

地域貢献  
学校を核とした人づくり・地域づくり

学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動

助言・支援

県・市町教育委員会、山口CSコンタクター

# 岩国市の取組

- 岩国市教育委員会
- 指定校  
(岩国市立麻里布小・中学校)



## 「岩国プラン」

- ▶ 「かかわり」の意識化
  - ・ 教材、教師、友だち、自分

## 「岩国市：授業スタンダード」

- ▶ 教室の整理整頓
- ▶ 目標の提示
- ▶ 表現活動
- ▶ 振り返りの設定

学力向上のために～「岩国プラン」・「岩国市：授業スタンダード」を生かして～

授業前のポイント：教室がきれいである。

授業スタンダード

授業場面でのポイント

導入

本時の**目標を提示**し、学習の見通しを説明する場面が設定されている。

展開

すべての児童生徒に**表現活動**の場面が保障されている。

終末

本時の目標について**振り返り**の場面が設定されている。

教材

・学習課題の明確化により、教材との効果的な出会いの場を設定する。

教師

・教材開発・提示の工夫により、学習意欲を喚起する。

教材

・教材に向かい続けるための手立てを用意する。

教師

・児童生徒の実態を把握し、個に応じた指導をする。

教材

・学習を終えて、さらに追求したい内容に注目させる。

教師

・内容の定着状況や学習の過程について適切に評価し、次時への意欲につなげる。

かかわり

かかわり

かかわり

友だち

・友だちと学習することや学習の見通しについて共有させる。

自分

・この学習を通して、「できるようになった自分」をイメージさせる。

友だち

・学び合い・練り合いの設定や発表方法の工夫により、考えを広げたり深めたりできるようにする。

自分

・自力解決の場を設定することで、考えをもたせ、自分の考えと比べながら交流させる。

友だち

・振り返りの発表により、友だちの学びにも気付かせ、次時にいかせるようにする。

自分

・授業を通して、ついた力・未解決な部分についてメタ認知させる。

授業スタンダードに則り、「教材」「教師」「友だち」「自分」との「かかわり」を適切に設定する授業を展開しましょう。

岩国プラン

# 岩国市の取組

- ・ 岩国市教育委員会
- ・ **指定校**  
**(岩国市立麻里布小・中学校)**

# 支援体制



山口県教育委員会義務教育課  
指導主事等



早稲田大学教職大学院 教授  
文部科学省「全国的な学力調査  
に関する専門家会議」委員

田中 博之



山口大学附属学校  
授業アドバイザー

ちかくに  
いわくに



iwakuni city



岩国市教育委員会学校教育課  
指導主事等



学校名	山口県岩国市立麻里布小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計	教員数
学級数	5	4	4	4	4	4	3	28	42
児童数	136	126	137	130	123	139	21	812	

学校のホームページアドレス <http://www.mfe.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp>





学校名 山口県岩国市立麻里布中学校

学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援学級	計	教員数
学級数	4	4	4	2	14	27
児童数	122	122	126	3	373	

学校のホームページアドレス

<http://www.mfj.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/>

# 麻里布小学校

表1 平成29年度全国学力・学習状況調査における本校の結果（正答率（％））

	国語A	国語B	算数A	算数B
麻里布小	78	58	76	45
山口県	76	58	79	45
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

表2 6年生の算数の全国調査・県調査における調査結果の推移（正答率（％））

	平成28年4月 （5年生時）	平成28年10月 （5年生時）	平成29年4月（6年生時）	
			算数A	算数B
麻里布小	81.3	51	76	45.5
岩国市	75.7	52.6	78	44.5
山口県	72.6	53.2	78.7	45.5

# 麻里布中学校

表1 平成29年度全国学力・学習状況調査における本校の結果（正答率（％））

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
麻里布中	80	75	68	47
山口県	79	73	66	49
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

表2 平成29年度山口県学力定着状況確認問題における本校の結果（正答率（％））

29年度	1年		2年				
	国語	数学	国語	数学	理科	社会	英語
麻里布中	65.1	53.2	63.7	42.2	43.2	38.3	55.3
山口県	64.7	52.7	63.5	44.4	41.7	38.2	56.2

# 麻里布中学校

表3 平成29年度全学調生徒質問紙調査

	「よく行った」と回答した生徒の割合		
	H27	H28	H29
授業の中で目標（めあて・ねらい）を示されていた	78.4	80.4	85.4
授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っていた	40.8	38.5	32.5
学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた	46.4	33.1	36.6
話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	28.8	23.0	30.9
授業において、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動に取り組んだ	38.4	18.9	30.9

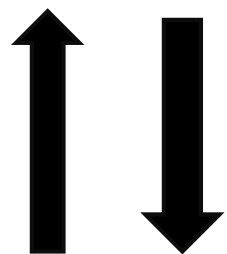
# 研究主題

「思考スキルを活用し、深い学び  
を目指す学習指導の工夫」



# 麻里布小学校 研究組織

- ▶ 学習ルール部
- ▶ 学習モデル・チーム部
- ▶ 学習スキル部
- ▶ 学習ツール・プロセス部



共通理解

各学年・専科

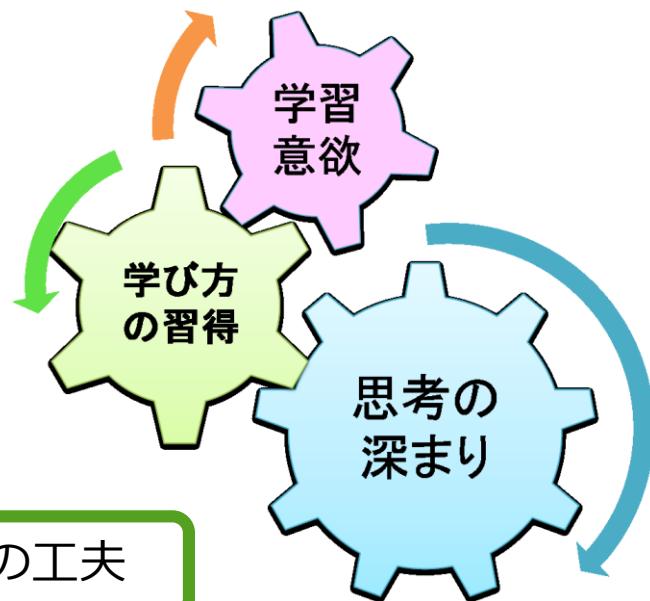


# 麻里布小学校

## 問題解決学習

- ① 学習課題の提示
- ② 解決の見通し
- ③ 自力解決
- ④ 協働解決
- ⑤ 一斉検証
- ⑥ まとめとふりかえり

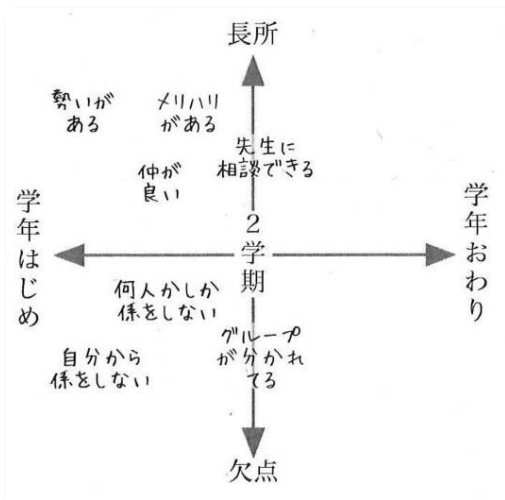
魅力ある課題の設定



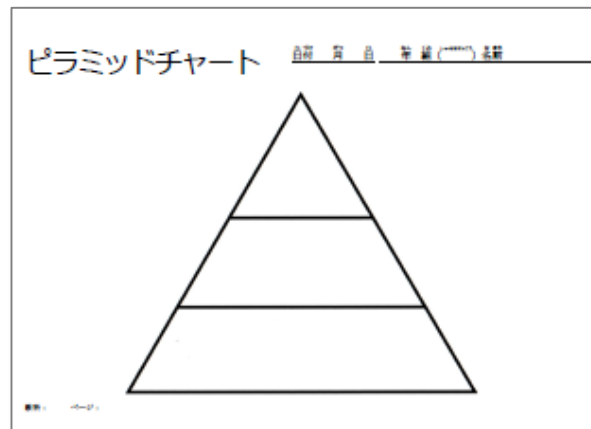
活用の場の工夫

# 思考ツール

- ▶ 学習スキル
- ▶ 学習プロセス
- ▶ 学習モデル
- ▶ **学習ツール**
- ▶ 学習チーム
- ▶ 学習ルール

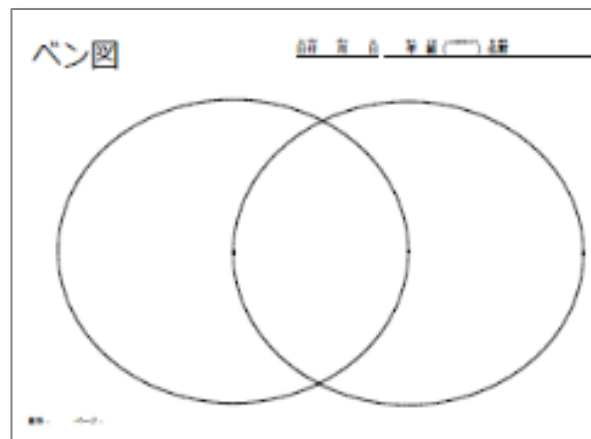


座標軸



ピラミッドチャート

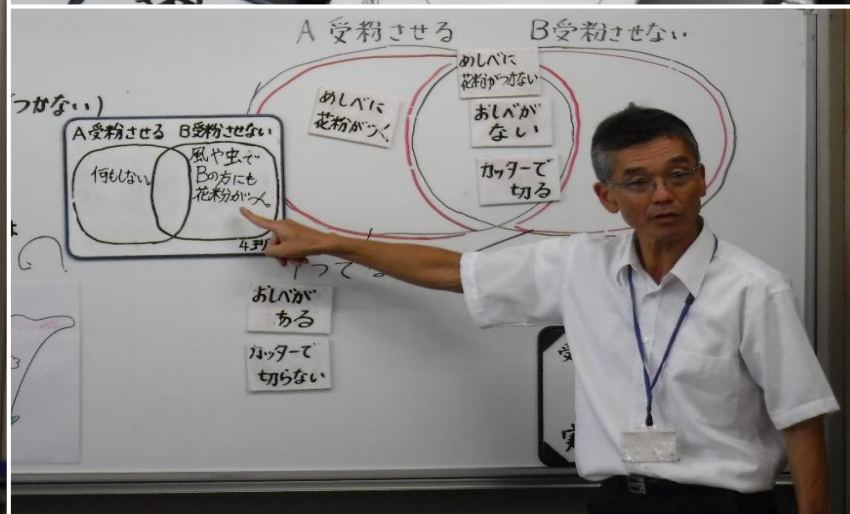
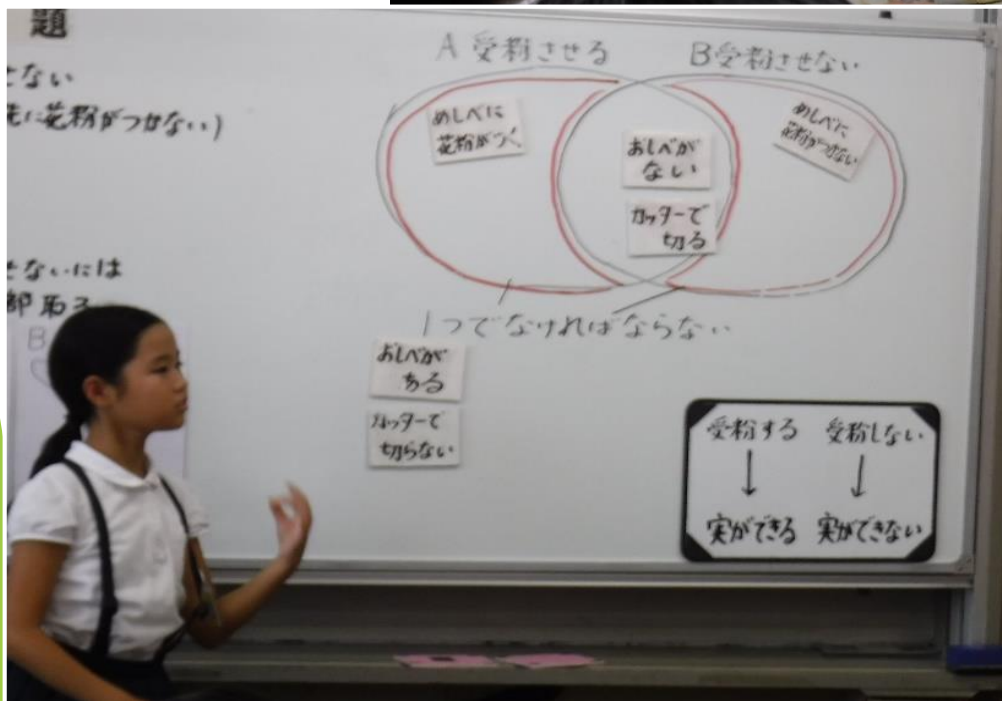
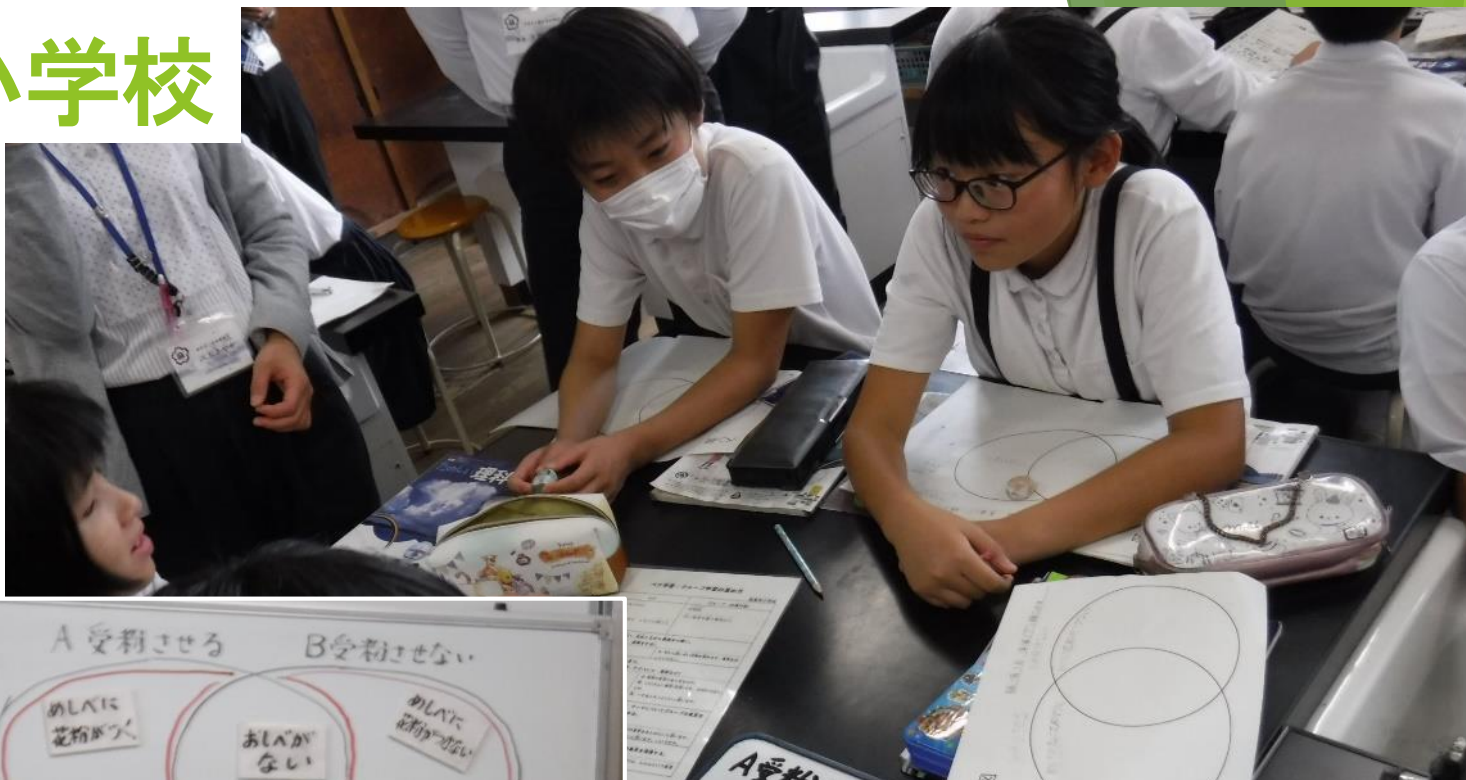

マトリックス表



ベン図

# 麻里布小学校

## 授業実践 理科





# 授業実践 国語

## ・タブレット



## ・ベン図

麻里布小学校



# 授業実践 国語

- ・ベン図
- ・タブレット



麻里布小学校



# 麻里布中学校

## 授業実践 社会



# 指導案とワークシート

## 「不平等条約改正への努力」

平成30年11月22日(木) 2年 3組 3校時

指導者 豊田 裕之

### 1 主眼

明治政府の悲願であった「条約改正」について、3つのエキスパート資料をもとに解き明かしていく。

### 2 指導上の留意点

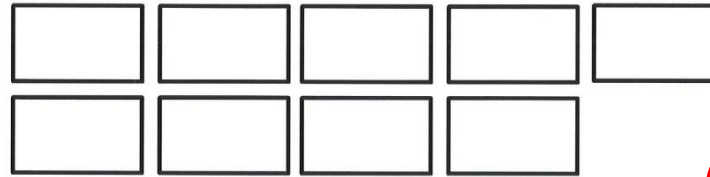
- ・協調学習の手法を用いて行う。
- ・エキスパート活動ではそれぞれの資料を読んだり、話し合ったりして、自分たちの言葉で説明したり、資料の補足をしたりできるように準備させる。
- ・ジグソー活動では、対話的な学習を目標とすることから、言葉による説明に重点をおくことをおさえる。
- ・ホワイトボードを用いて、条約改正のキーワードを見える化する。

### 評価

- ・エキスパート資料を言葉で説明できたか。
- ・わが国の国際的地位の向上が、条約改正につながったことを理解できたか。

めあて なぜ、わが国は不平等条約の改正に成功したのか

資料A『日清・日露戦争』資料B『近代的な政治のしくみ』資料C『産業の発達と日本人の活躍』



各班のホワイトボード

### 本時の流れ

#### 時間

1. 導入と本時の説明 10分
2. エキスパート活動 10分  
それぞれの資料を読み合ったりして、説明できるように準備する。
3. ジグソー活動 10分  
グループごとに資料を渡し、グループに言葉で伝える。
4. クロストーク 10分  
グループの発表を聞き、気づきなどをメモする。
5. まとめ 5分  
教科書を音読し、ポイントとなる部分に線を引く。
6. ふりかえり 5分  
各自でもう一度、課題に対する考えをワークシートに書く。

歴史学習プリント24 年 組 番 氏名

学習課題：なぜ、わが国は不平等条約の改正に成功したのか

学習前の予想

エキスパート活動（メモをとろう）  
資料B『 』

資料A『 』

資料C『 』

### 2 ジグソー活動

わが国が、不平等条約の改正に成功したのは、  
から。

ふりかえり（各自でもう一度、課題に対する答えを書こう）

わが国が、不平等条約の改正に成功したのは、  
から。



# 3種類の資料

## エキスパート資料A 『日清・日露戦争』 名前( )

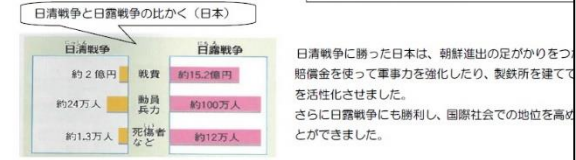
**日清戦争前の東アジアの関係を描いたもの**  
日本と不平等な条約を結んでいた朝鮮では、政治や農民の反乱が起こりました。そこで、政府が中国(清)に援軍を求めると、日本も清との衝突とついでに軍艦を送りました。内乱はおさまり、清政府は軍艦の引き上げを求めましたが、両国は開きません。1894年、日清戦争が始まります。



**清からの賠償金の使い分け**  
この戦争で、日本は当時の国の1年の収入の約2.5倍の賠償金を使いました。得た賠償金の金額は、当時の日本の国の1年の約3倍でした。

**日清戦争後の東アジアの関係を描いたもの**  
日清戦争ののち、日本とロシアは朝鮮(韓国)をめく対立するようになりました。1904年、日露戦争が始まります。

**日本軍が勝利!!**  
・ロシアは朝鮮(韓国)での日本の利益や政治の権を認める。  
・ロシアは、南満州鉄道の権利や樺太(からふと)の分の領土を日本にゆずる。



日清戦争に勝った日本は、朝鮮進出の足がかりをつ賠償金を使って軍力を強化したり、製鉄所を建ててを活性化させました。さらに日露戦争にも勝利し、国際社会での地位を高めました。

## エキスパート資料B 『近代的な政治のしくみ』 名前( )

**ノルマントン号事件**  
1886年、イギリス船ノルマントン号が和歌山県の沖合に沈没しました。イギリス人の船長と乗組員は全員助かりました。本人乗客25名は全員水死しました。しかし、船長は条約で認められた治外法権によって、イギリスの裁判官に送られ、軽い罰を受けただけです。政府による新しい改革が進むなか、改革に不満を持つ人々による反乱が各地でおこるようになりました。

**憲法をつくって、国民の意見を広く聞くべきだ!!**  
**国会を開いてほしい!!**  
自由民権

かつて政府の役人であった板垣退助(いたがきだすけ)は、政治は一部の政治家や役人たちだけで決められ、欧米の国々のように、国の最高のおきてである憲法を制定して議会を開き、国民の意見を広く聞くべきであると主張しました。政府に国会を開くように求める自由民権運動を指導しました。

**自由党** (板垣退助) **立憲改進党** (大隈重信) → 政党をつくり、国会開設にむけて準備を進めた。

**大日本帝国憲法の発布**  
政府は、伊藤博文らをヨーロッパに送り、ドイツの模範を参考にしました。模範した伊藤は、内閣の制度を初代内閣総理大臣となりました。1889年明治天皇の名で大日本帝国憲法が発布されました。

こうして大日本帝国憲法が制定され、国会が開院されました。日本は、アジアではじめて憲法を制定し、欧米諸国のような近代的な政治のしくみを整えました。そうすることで、日本の国際的な地位が向上しました。

(メモ)

## エキスパート資料C 『産業の発達と日本人の活躍』 名前( )

**生糸をつくる製糸工場のような**  
日清戦争の少し前から、生糸(かいと)や綿糸(めんし)、綿織物などをつくる軽工業が盛んになりました。日本は、欧米に比べて賃金が安く、製品の質もよかったです。外国産よりも値段が安くよい製品がつけられ、やがて生糸の輸出量は世界一になりました。【製糸場で働く人の1日】

**八幡製鉄所**  
政府は、日清戦争で得た賠償金の一部を使って、北九州に八幡製鉄所をつくりました。造船業も盛んになり、兵艦をつくる工業にも力をいれるようになりました。

**産業が盛んになると、公害が発生する**  
『足尾銅山毒害事件』  
足尾銅山(栃木県)では、重要な輸出品の一つである銅の生産が盛んであったところ、1890年ごろから鉱山から近くの川に流れ出した鉱毒で、農作物や家畜に被害が出るようになった。栃木県の議員だった田中正造は、農民や漁民とともに鉱山の採掘(そうぎょう)停止と、被害を受けた人々の救済を政府にうたった。公害とたたかいて人生をささげました。

◆政府は、明治の初めから多くの留学生を海外に派遣し、欧米の学問や技術を学ばせました...

人物	業績
北里柴三郎	破傷風の血清療法を発見
野口英世	黄熱病の研究
津田梅子	最初の女子留学生 学校を開き、英語教師に力を注ぐ
科学者	北里柴三郎: 破傷風の血清療法、ペスト菌発見 志賀潔: 赤痢菌の発見 野口英世: 黄熱病の研究 長岡半太郎: 原子模型の研究
文豪	夏目漱石: 『吾輩は猫である』、『坊っちゃん』 森田龍雄: 『高砂』 樋口大祐: 『破戒』 徳田秋声: 『たけくらべ』、『にこりえ』

日本は、産業の発達によって国力が充実し、人々のくらしが豊かになっていきました。また、世界で活躍する日本人が出てきたことも、日本の国際的な地位の向上につながっていきました。産業の発達と科学の発展が人々の生活を変え、国際的地位を向上させていきました。

(メモ)

## 1 エキスパート活動（メモをとろう）

資料B『

資料B

資料A『

資料A

資料C『

資料C

各担当が読み取った資料の情報を伝え合う

## 2 ジグソー活動

わが国が、不平等条約の改正に成功したのは、

から。

各資料の情報をつなげて班で考える

## 3 クロストーク（他班の発表を聞いて、気づいたことなどを書こう）

クラスへ発表する

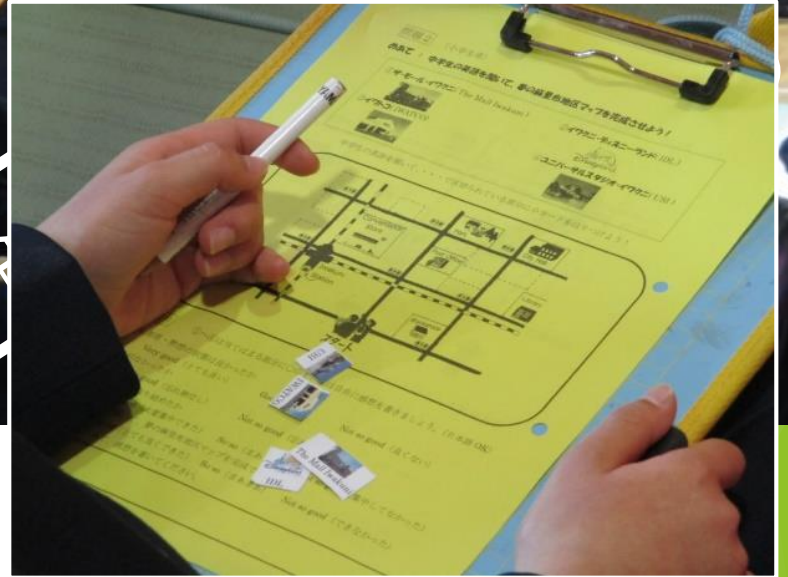


# 麻里布中学校

## 授業実践 英語



2019/01/17 03:49



# 麻里布小学校

## アクティブ・ラーニングに関わるアンケート結果

	家では自分で計画を立てて学習をしている	予習・復習やテスト勉強などの自主学習で、教科書を使いながら学習している	授業で新しい問題に出あったとき、それを解いたり考えたりしてみたい	授業では先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分で立てた課題に対して自分から取り組んでる	問題の解き方や答え方がわからないときは、あらかじめずいづいいろいろな方法を考えている	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている	授業で自分の考えを説明したり発表したりしている	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど、工夫して発表している	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようになっている	学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている	授業で学習したことを、ふだんの生活の中で使うことができないか考えている	授業や家で、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりしている	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある	算数などの授業で問題を解くとき、もっと簡単な方法がないか考えている
	主	主	主	主	主	主	対	対	対	対	深	深	深	深
3～6年平均 4月	77.5	73.5	85.1	76.3	87.0	74.6	64.1	61.8	74.8	75.8	70.0	73.6	73.9	78.1
3～6年平均 1月	78.5	76.1	82.2	81.5	86.6	82.8	60.7	56.7	77.9	79.0	71.7	69.9	70.3	77.4
1月～4月	1.0	2.6	-2.9	5.2	-0.4	8.3	-3.4	-5.0	3.1	3.2	1.7	-3.7	-3.5	-0.7
	10%以上プラス		4%以上プラス			4%以上マイナス		10%以上マイナス						

# 成果の普及

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）  
の視点からの、学習・指導方法の改善の推進



授業改善



学習指導方法の開発

授業実践

校内研修



成果の普及

H30 中間発表

R1 研究発表大会

# 子供の学びのために